

厚生科学研究研究費補助金
21世紀型医療開拓推進研究事業

血糖コントロールクリティカルパスによる
医療の質の向上に関する研究

平成13年度 総括研究報告書

主任研究者 小堀 祥三

平成14(2002)年4月

目 次

I. 総括研究報告

血糖コントロールクリティカルパスによる医療の質の向上に関する研究…………… 1
小堀 祥三

〔資料〕 血糖コントロールクリティカルパス（スタッフ用）

血糖コントロールクリティカルパス（患者用）

バリエーションコード表

（Ⅲ. 研究成果の刊行物・別冊参照）

II. 研究成果の刊行物に関する一覧表…………… 2

III. 研究成果の刊行物・別冊…………… 3

血糖コントロールクリティカルパスによる医療の質の向上に関する研究

主任研究者 小堀 祥三 国立熊本病院内科医長

研究要旨

血糖コントロール目的で入院した2型糖尿病患者に対して用いた血糖コントロールクリティカルパスの使用は従来の方法に比べて在院日数の短縮、経済効率の向上および患者満足度の高揚をもたらし、糖尿病患者の血糖コントロールを良好化させる上で極めて有用な手段であることが示唆された。

分担研究者氏名・所属機関及び職名

東 輝一朗 国立熊本病院内科医長
後藤 嘉樹 国立病院長崎医療センター内科医長
辛島 健 国立病院九州医療センター内科医長
吉成 元孝 国立療養所福岡東病院内科医長
東堂 龍平 国立大阪病院内科部長
山田 和範 国立京都病院内科医長
宮村 信博 熊本大学医学部附属病院助手
蛇原 賢司 国立療養所再春荘病院循環器科医師

A. 研究目的

本研究は血糖コントロール目的で入院した2型糖尿病患者に対して血糖コントロールクリティカルパスの使用が医療の質の向上への有効性について検討した多施設研究である。

B. 研究方法

2001年4月から2002年3月まで血糖コントロールを目的として入院した2型糖尿病患者528名（年齢35歳から79歳）を無作為に血糖コントロールクリティカルパス使用群（CP使用群）と非使用（CP非使用群）の2群に分割した。血糖コントロール退院基準達成者はそれぞれ255名（男136名、女119名）と253名（男148名、女105名）で両群間に有意の差は認めなかった。CP使用群の在院日数予定を14日とし、CP非使用群の在院日数予定を同群の平均在院日数である26日と設定した。これらの条件で血糖コントロール退院基準を満たした者について在院日数および在院日数予定達成率について比較検討した。（倫理面への配慮）

従来の血糖コントロールの方法およびCPを使用した場合の血糖コントロールいずれを用いても患者が明らかな不利益を被ることはなく、また対象者の人権の擁護について、得られた成績に関しては、個々の症例で発表は行わず、単に統計上の数値として発表する。

C. 研究結果

両群の年齢は、それぞれ 60.9 ± 10.8 （平均値±標準偏差）歳と 61.3 ± 9.6 歳で両群間に有意の差は認めなかった。在院日数は 17.1 ± 5.5 日と 26.6 ± 6.4 日でCP使用群が $p < 0.0001$ で有意に短縮された。在院日数予定達成率は $36.1 \pm 48.1\%$ と $56.5 \pm 49.7\%$ でCP非使用群が $p < 0.001$ で有意に達成された。在院日数予定達成のバリエーションとしては合計273件で患者要因198件（回復の遅延124件、理解力不足74件）、職員要因42件（インスリン療法導入遅延）、病院要因33件であった。

D. 考察

これらの結果からCPの使用は血糖コントロール入院の在院日数短縮に対して極めて有効であることが示された。また、退院基準達成については両群間に有意の差はみられないので、少なくとも医療の質については同等であると考えられた。このことから明らかにCP使用群が経済効果の面では当然優れていることが示唆された。しかし、一方で、在院日数予定達成についてはCP非使用群が有意に達成率が高値であることからCP使用群における達成率の向上が必須であることもいえる。

E. 結論

CPの使用は、これに平行して行ったCP使用に対する患者へのアンケート調査においても在院日数が予め規定されていること、入院中の指導や検査内容の流れが分かりやすいことなど患者満足度も高く、血糖コントロール入院の在院日数短縮し、退院基準達成も従来の方法と何ら変わりなく、経済効果を挙げることから極めて有効な手段である。

F. 健康危険情報

本研究においては該当する健康危険情報は認めなかった。

G. 研究発表

1. 論文発表

小堀祥三、矢野美由紀、野満郁、高橋毅、東輝一朗、宮崎久義：血糖コントロールクリティカルパスによる医療の質の向上、医療マネジメント学会誌（2002年9月掲載）

2. 学会発表

高橋毅、矢野美由紀、島田達也、東輝一朗、小堀祥三：血糖コントロールクリティカルパス改訂後のアウトカム、第39回日本糖尿病学会九州地方会、大分、2001年10月26日

小堀祥三：血糖コントロールクリティカルパスによる医療の質の向上に関する研究、21世紀型医療開拓推進研究（生活習慣病・心筋梗塞分野）研究成果発表会、東京、2002年3月5日

H. 知的財産権の出願・登録状況

出願・登録の予定なし。

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|--|---|-----------------------|-------|---------|------|
| 小堀祥三 | 血糖コントロールクリ ティカルパスを用いた 医療の質の向上に関する研究 | Aging&Health | 11巻2号 | 17-18 | 2002 |
| 小堀祥三、 矢野美由紀、 野満郁、高橋毅、 東輝一朗、 宮崎久義 | 血糖コントロールクリ ティカルパスを用いた 医療の質の向上 | 医療マネージ メント学会雑 誌 | 3巻2号 | Inpress | 2002 |
| | | | | | |

20010563

以降のページは雑誌/図書等に掲載された論文となりますので
「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。